第三回　子育ち子育て支援検討委員会に向けて

・第二回での各委員のご意見を分類別にまとめたものとなっています。
　内容等をご確認いただくとともに、子ども達や保護者、子ども達の周りを取巻く地域や保護者の困り感、子育ち子育ての課題が、最後の支援のまとめのイメージ（Ｐ１０）につながっているのかなど、第三回の検討委員会で、各委員のご意見をいただければと考えております。

第二回子育ち子育て支援検討委員会

居　場　所

親の不安感、親の居場所づくりは、子どもと連動している。親に必要な居場所づくりは、子どもにとっても必要な居場所をつくるということ

親の居場所

親が困ったときの居場所（逃げ場）

保護者の居場所

子育ての先輩と話ができる、どうしましょうといえる場所、お母さんも相談できる場所、

孤立感からの解放

室内遊戯

子どもの動き、遊具も子どもの発達、遊び方を教えてくれる

相　談

遊び方の伝達⇒相談⇒つなげる人でカバーしていくもの

気軽に行ける場所

子育て施設で食べれるとこがない
親子でお弁当

子育てへの
孤独感

じゃんけんぽん（こども広場）

話したい、
共感したい
⇒　相談したい

人が集まる⇒　相談⇒　交流

保護者が行く場所
入りやすい場所

楽しい、友達、おもしろい遊び
⇒　**更に相談できる**　⇒　**お得感**

妊娠期

横のつながり

チームがつくれる体制。発達支援センターも入れて、市内に点在化しても良い

小学生の居場所
学校や集団に疲れている子ども達

生き渋り
不登校
好んでいられる場所がない

青年期

自分自身のトリセツ
相談できる場所をつくりながら社会へでていく

まとめ

乳児・幼児の居場所　保護者の居場所　小学生の居場所

相談の専門性チーム

専門職のサポート
療育

コーディネート
保育園、学校　⇔　福祉　教育　医療

育児にあたっての
プランづくり

プランナーの存在

相談しやすい
環境

子どもの発達の相談
⇒　障害福祉課を紹介されることへの抵抗感
⇒　こども未来部ができたことによる相談のし易さ

相談　⇒　ハードルが高い
母親からみると、窓口を広く、浅く、
して欲しい。

仲良くなったら相談し易い

じゃんけんぽん
（こども広場）

「じゃんけんぽん」で遊んでいて、相談
ができる。子育て情報の入手。

医療機関へつながる

医療が不足し
ていることへ
の不安

チームづくり

お母さんのサポートチームがあっても良い。
コーディネーターは各現場にいた方が良い

相談にのってくれる人がいる。
力がある人がいるという安心感。

相談には、力のある人材を連れてくる、育てる

まとめ

専門家・専門職による連携・サポート・相談

ネットワーク・拠点

各サービス・点となるものはあるが、**面としての関連性、**関係性による**総合的なサービス体系**に欠ける

地域の子育て支援の拠点
拠点となる人や場所が必要

子育て中のネットワーク

身近なつながり　励ましあい
ママとも、つながり、情報交換

子育て中の集まれる場所

災害時：お迎えの時など、**保護者同士が話せるわずかな時間**が、子育てを共有できる貴重な時間だった

ネットワークの広がり

保健所、教育、保育、障害福祉、あのえっと

NPO等子育て支援団体の連携、市内の子どもの定期的な情報共有、支援の共有化

一つのところに色々な機能

相談、広場、にじいろキッズ（療育）、保健所相談（母子等）

まとめ

専門家・専門職による連携・サポート・相談　　安心安全な居場所（拠点）

地域・保護者（親）

ワンオペ

夫婦のみ、親の支援は受けたくない、人の子育ては？
ネットの子育てとは異なることへの戸惑い

親
子育てを助けたい

子育てを助けたい、育児の仕方が全く異なることに気づく、だきぐせ

子育て期

・兄妹を育てることができない（一人ずつでないと育てられない）
・育児が大変

→ リフレッシュできる仕組み → **一時預かり**（親のリフレッシュ）

親
子育て

子どもが小さい頃から働き始める → 子育てを楽しめない → 子育てが楽しいと思える仕組み

妊娠期

出産、育児への不安
ワンオペ育児、パパの育児、夫婦２人の育児

→ ・子育てへの孤独感
・地域や周りの人への支援
・みんなで子育てをできる場

地域のシニアが子育てを助けてくれる　その仕組み

地域で子育てをやっていく

まとめ

妊娠期・乳幼児期の親への支援（保護者の居場所）　一時預かり（保護者のリフレッシュ）

地域の子育て支援

子育ち子育て支援のイメージ

◎　第一回目の議論、第二回目の議論から、長野市内の子どもの置かれている状況、保護者の状況、地域の状況などを踏まえ、必要な支援や工夫すべき内容、もっと充実した方が良いと思える支援など、委員会から出された意見を次ページよりイメージとしてまとめてみました。

　また、参考として他都市の取組や公立保育園でモデル的に取組んでいる内容などを併せてイメージしています。

保育と発達支援との連携

専門性　⇔　保育で苦しまずに支援できる仕組み

多様性　⇔　専門職の現場のチームの重要性

保育園と共有できる場が必要

専門性のある人が、小さい時に見てくれる仕組み

・チームで育てていく
・二次障害が少なくなる
・人のかかわりが工夫でき、少なくなる
・加配の増加を止められる

専門性

○　１０人に個別の支援はできない

⇒　保育の見直し

⇒　クラスづくり　・・・　みんなにとっての良い保育

⇒　おもしろく　楽しく伝えていく

⇒　視点を変える　・・・　みたてる　専門性

保　育

○　インクルーシブ保育　（学校⇒学びの場がわからない）

⇒　特性のある園児（児童）への配慮

⇒　多様性を受け入れる場になっていく

⇒　発達の相談員がいて、相談できる場　相談の入り口となる場

福岡塾の取組（巡回訪問支援講座からの取組）

長野市公立園でモデル的に実施中。令和４年度青木島保育園。
令和５年度では篠ノ井中央保育園で実施予定。

保育士の発達障害児への対応力向上研修

実行機能：園児が自分でやろうと思って決める力

目指したい園児のイメージ

・保育士に世話をやかれずとも**自ら動ける園児**
・保育士に個別対応をされずとも**自ら気持ちを**切り替えていける園児
・同じ活動でも集うクラス、園という環境のもと。「**僕も参加してみたい、チャレンジしたい**」と思える園児
など

多くの園児が実行機能で動けるクラスづくり

・気になる園児の特性を認めつつ**クラスという集団で保育**していく

・日を追うごとに園児への個別対応が減っていく
・日を追うごとに保育士にまとわりつく園児が減ってくる

配慮が必要な園児を含めた保育園のクラス運営

効　果

◎　**子ども主体の保育につながる**

◎　**二次障害が少なくなる**

◎　**加配保育士の増加を止められる**

参考　他市の取組

奈良市

子どもセンター　にじいろ

キッズスペース

就学前の子どもが元気いっぱい遊べるスペース

地域子育て支援センター

妊婦さんや概ね0歳から3歳の子どもと家族が集える場所

子ども発達相談

就学前の子どもの発達相談
子どもの発達段階に応じた関わりを一緒に考えます

連　携

子ども家庭総合支援拠点

児童相談所・一時保護所

こども総合支援センター　あのえっと

すくすく広場で経過を見ていく中で、丁寧なかかわりが必要と思われる児

すくすく広場

お子さんの発達や子育てについての相談に応じます。お子さんに合わせた対応の仕方を一緒に考えていきます。

・健診・健康教室参加後、最長６回。
・会場：市内７か所の保健センター（月1回）
・スタッフ：保健師、発達相談員
・時間　9：30～10：45
・元気に遊ぼう、集団遊び、おもちゃで遊ぼう

あそびの教室

お子さんが保護者の方と一緒に楽しく遊ぶことを通じて社会性を身につけたり、心身の発達を促すことを目的としています。

・参加期間　約６か月
・対象年齢は、２歳から３歳（就園前）
・スタッフ：保健師、保育士、発達相談員（その他　作業療法士、言語聴覚士）
・会場：市内５か所の保健センター（週1回）
・時間　9：30～10：45

子育ち子育て支援検討委員会議論からのイメージ図

学校行事等での平日の預り

休日の預かり

女性活躍・女性の働き方

支援が必要な児童の保護者へのサポート

一時預かり
（保護者のリフレッシュ）
（働き方への支援）

全天候型　雨の日、冬の日でも**安心な居場所**

発達相談・支援

（1歳半健診での保護者の最初の相談窓口）

乳児・幼児の居場所

（子ども同士の交流・遊び）

保護者の居場所

（孤立感の解消・子育ての共有）

小学生（居場所・相談）

保育と発達支援との連携

実行機能で動けるクラスづくり

地域からの子育て支援の仕組み

専門家・専門職による連携・サポート・相談